

2026年3月27日

報道関係各位

一般社団法人電子情報技術産業協会

「第11回 JEITA ベンチャー賞」受賞6社が決定
ベンチャー企業との共創・連携を促進



一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA：代表理事/会長 漆間 啓 三菱電機株式会社代表執行役 執行役社長 CEO）は、本日、「JEITA ベンチャー賞」の受賞企業6社が決定したことを発表しました。JEITA ベンチャー賞は、電子情報技術産業の総合的な発展のみならず、経済発展に貢献しうるベンチャー企業を表彰するもので、過去には株式会社 Preferred Networks や株式会社 Mujin、株式会社 ABEJA をはじめ、株式会社 FLOSFIA や株式会社ノベルクリスタルテクノロジーなど、成長性と先進性を備えた企業、計58社が受賞しており、本年が11回目の取り組みとなります。「JEITA ベンチャー賞審査委員会」（審査委員長 荒川泰彦 東京大学 ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任教授／東京大学 名誉教授）が成長性（先導性）、波及性、社会性の3つの視点からベンチャー企業を審査・選考した結果、第11回 JEITA ベンチャー賞は株式会社 aiESG、アイクリスタル株式会社、株式会社 Quanmatic、株式会社 JCCL、SyntheticGestalt 株式会社、Sotas 株式会社の6社が受賞しました。なお、特別賞である「Early edge 賞」（市場における貢献度は未知数だが、非常に高い技術を保有し、将来、大きな成長が期待できる企業を特別賞として表彰するもの）については、今回は受賞企業なしとなりました。

JEITA は現在、Society 5.0 の推進を事業指針として、業種・業界の枠を超えた共創による新たな市場創出に取り組んでいます。JEITA ベンチャー賞はその取り組みの一環であり、IT・エレクトロニクス業界の発展に繋がるベンチャー企業を支援するとともに、JEITA 会員企業との共創・連携・エコシステムの構築支援を目的としたものです。受賞企業が JEITA への入会を希望する場合は、「ベンチャー優遇特例制度」（JEITA ベンチャー賞を受賞した企業等が正会員として新規に入会する場合、申請により協会会費の負担を2年間免除する仕組み）を活用することができます。今回受賞した計6社のベンチャー企業は今後、JEITA の活動に参画いただくほか、主催する総合展示会「CEATEC」への出展や JEITA が主催するシンポジウムなどへの登壇、さらには JEITA 会員企業との交流支援などの特典が授与されます。

JEITA はベンチャー企業との共創・連携を促進し、Society 5.0 に向けたテクノロジーの社会実装を推進していくことで、わが国が直面する社会的課題の解決と新たなビジネスの創出を目指してまいります。今後の取り組みにつきましては、随時発表いたします。

■受賞企業の審査評価（社名五十音順）

JEITA ベンチャー賞

株式会社 aiESG

代表者：馬奈木 俊介（代表取締役）

本社所在地：福岡市博多区博多駅前 1-15-20 NMF 博多駅前ビル 2 階

[審査評価]

世界で初めてサプライチェーンを遡り製品・サービスの包括的 ESG 評価が可能となる AI 「aiESG」を開発した。ESG リスクの数値化や自然・人的・人工資本の経済価値を総合的に測定する仕組み等により、取引先や投資家、消費者は、持続可能性の観点から望ましい製品・サービスを選択することが可能となる。これらは、サステナブルな社会の構築に向けた、企業活動における環境・社会・経済への影響に対する近年の強い定量化ニーズに直接的に対応するものであり、今後の大きな成長を期待できる。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

アイクリスタル株式会社

代表者：高石 将輝（代表取締役）

本社所在地：名古屋市千種区不老町 1 番 名古屋大学 TOIC

[審査評価]

プロセスインフォマティクスを基盤とし、単一プロセスに限らず工程全体の最適化をプロセス横断型デジタル基盤「メタファクトリー」として進めている。各工程の個別最適化ではなく、プロセス知識の体系化・最適化・再利用・現場適用・知識循環を一つの基盤上で展開する仕組みを備えており、半導体製造におけるプロセス全体最適化の有効性を世界初の実ラインとして示すとともに、電子材料、金属加工、樹脂成形、化学プロセスなど多段階かつ高付加価値な製造分野全般に横展開可能な基盤技術として、高い成長性と産業横断の先導性を有している。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

株式会社 Quanmatic

代表者：武笠 陽介（代表取締役 CTO）

本社所在地：東京都新宿区早稲田町 27 早稲田大学 40 号館 605 号室

[審査評価]

量子計算と AI を融合した独自手法により、現場特有の複雑な制約を緻密に反映できる最適化計算ソリューションを提供している。既に、設備稼働ロスを約 40%削減するなどの実績を有し、単なる理論に留まらない現場が真に使える形での社会実装を実現している。現時点では古典コンピュータ上で量子計算の利点を最大限に引き出しつつ、実務データと実装経験を蓄積する戦略は、量子コンピュータ時代の到来に向けた大きな優位性となるだろう。量子コンピュータの本格実用化に至るまで量子技術を駆使して社会実装を牽引し、複雑な課題の解決が強く期待される。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しいと判断した。

株式会社 JCCL

代表者：梅原 俊志（代表取締役 CEO）

本社所在地：福岡県福岡市西区九大新町 5 番 5 いと Lab+ 研究開発棟 215 号室

【審査評価】

生体を模倣した新しいコンセプトにより、低温で CO₂ の吸脱着可能なアミン含有ゲルからなる固体吸収材を実現し、それを搭載した CO₂ 回収装置を提供している。当装置は、CO₂ 濃度の低い大気から濃度の高い排ガスまでカバーできることを特徴としており、固体吸収材からの CO₂ 回収温度も 40-60℃であり低品位排熱の利用を可能とし、処理力 2kg/日の CO₂ 回収装置はすでに複数の企業に導入済みである。今後、さらなるスケールアップや耐久性の向上により、広範囲の CO₂ 濃度を排出する幅広い産業分野の企業への導入が期待される。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しいと判断した。

SyntheticGestalt 株式会社

代表者：島田 幸輝（代表取締役 CEO）

本社所在地：東京都港区芝大門 1-2-14 H10 浜松町 1101

【審査評価】

創薬 AI、酵素探索 AI にかかるサービスを展開し、100 億件超の化合物情報を学習した世界最大の分子特化型基盤 AI モデルを開発、提供している。同社はすでに国内外の製薬会社などと創薬のための共同研究を実施しており、今後も、独自の基盤モデル開発並びにその高度化に資するデータセットの構築が進むことで、創薬研究にかかる膨大な時間と費用を削減し、ものづくり・脱炭素社会に貢献できる技術開発を進めていくと期待される。よって JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

Sotas 株式会社

代表者：吉元 裕樹（代表取締役社長）

本社所在地：川崎市幸区新川崎 7-7

【審査評価】

化学業界固有の素材調査事業および文書管理を支援するための情報プラットフォームを提供する。グローバル環境において特定化合物の規制が強化される傾向にあるなか、Sotas のプラットフォームは 30 万件の化学物質に関する法令データベースを随時更新する。化学物質の取り扱いに関する書類「SDS」の PDF を読み込むことで、専門知識を持たない人でも素材の法令判定を自動化できる。化学メーカーにとって取引先から素材の法令判定を依頼されるのが急増しており、この負荷が大幅に削減できる。化学メーカーのグローバル進出を後押しするツールといえる。よって、JEITA ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

Early edge 賞

受賞企業なし

■JEITA ベンチャー賞審査委員会

- 委員長 荒川 泰彦 東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任教授
東京大学 名誉教授
- 委員 浅見 直樹 株式会社日経 BP 専務取締役
- 委員 北岡 康夫 大阪大学 共創機構 機構長補佐
イノベーション戦略部門 部門長（兼）大学院工学研究科 教授
- 委員 齊藤 健二 株式会社 AIST Solution プロデュース事業本部
スタートアップ部 次長
- 委員 脊板 道雄 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
スタートアップ支援部 連携・対外発信チーム チーム長
- 委員 中田 登志之 東京大学 名誉教授
- 委員 本多 敏 慶應義塾大学 名誉教授
慶應義塾大学附属システムデザイン・マネジメント研究所 上席研究員